

令和7年度第1回千葉市こども未来局指定管理者選定評価委員会 議事録

1 日 時 令和7年10月14日（火）18時00分～20時10分

2 会 場 千葉市役所本庁舎高層棟3階XL会議室301

3 出席者

(1) 委 員

浅川委員、伊原委員、加瀬委員、福澤委員、三浦委員

(2) 事務局

山口こども未来部長、小名木幼児教育・保育部長、高澤こども企画課長、石井こども若者支援室長、加曾利健全育成課長、上田幼保支援課長

4 議 題

(1) 会長及び副会長の選任について

(2) 千葉市子育て支援館 施設管理に係る年度評価について

(3) 千葉市子ども交流館 施設管理に係る年度評価について

(4) 千葉市少年自然の家 施設管理に係る年度評価について

5 議事の概要

(1) 会長及び副会長の選任について

委員の互選により、伊原委員を会長に、三浦委員を副会長に選任した。

(2) 千葉市子育て支援館 施設管理に係る年度評価について

令和6年度「指定管理者年度評価シート」について施設所管課から説明の後、意見交換を経て、委員会としての意見を取りまとめ、決定した。

(3) 千葉市子ども交流館 施設管理に係る年度評価について

令和6年度「指定管理者年度評価シート」について施設所管課から説明の後、意見交換を経て、委員会としての意見を取りまとめ、決定した。

(4) 千葉市少年自然の家 施設管理に係る年度評価について

令和6年度「指定管理者年度評価シート」について施設所管課から説明の後、意見交換を経て、委員会としての意見を取りまとめ、決定した。

6 会議の経過

○事務局 それでは定刻となりましたので、これより、令和7年度第1回千葉市こども未来局指定管理者選定評価委員会を開会いたします。皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私は本日の司会進行を務めさせていただきます、こども企画課の

福角と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は半数以上の委員の御出席がありますので、「千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例」第10条第2項の規定により、会議が成立しておりますことを御報告いたします。

また、会議の公開及び議事録の作成についてですが、資料4-2「千葉市こども未来局指定管理者選定評価委員会の会議の公開及び議事録の作成等について」、を御覧ください。会議の公開及び議事録の作成等について、平成22年に本委員会で議決した事項でございます。本日の会議は1(1)ただし書きに該当しませんので、公開で実施することといたします。

なお、本日は、傍聴人の方はいらっしゃいません。

続きまして資料の確認をさせていただきます。本日、机上には次第、委員名簿、席次表、追加資料をお配りしております。また、事前に青いファイルで資料及び参考資料をお送りしております。不足等ございましたら、いつでも事務局までお申し付けください。

それでは、開会に当たりまして、こども未来部長の山口より御挨拶を申し上げます。

○山口こども未来部長 改めましてこんばんは、こども未来部長の山口でございます。本日は皆様、大変お忙しい中、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また日頃より委員の皆様方におかれましては、本市のこども施策、そして子育て支援施策を始めといたしまして、市政各般にわたり多大なる御支援・御協力を賜っておりますこと、この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。どうもありがとうございます。

本日、第1回目の開催となります、こども未来局指定管理者選定評価委員会でございますけれども、今年度、委員の改選がございました。加瀬委員、福澤委員、三浦委員におかれましては、委員再任をお引き受けいただきました他、新たに2名の方、学校教育を専門とされております伊原委員、そして、幼児教育・保育を御専門とされておられます浅川委員に御就任を頂きました。皆様、大変御多忙のお立場であるにもかかわらず、委員就任の御快諾をいただきましたことに重ねて感謝を申し上げます。

さて、本日の委員会でございますけれども、こども未来局が所管しております、三つの施設、子育て支援館、子ども交流館、そして少年自然の家における昨年度の指定管理業務に関する年度評価につきまして御報告をさせていただき、御審議をお願いいたします。説明・御審議は、施設ごとに説明員を入れ替える形で進めさせていただければと存じます。

委員の皆様におかれましては、それぞれ御専門の立場から、ぜひ忌憚のない御意見をいただけますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、私からの御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局 次に令和7年4月1日付委員改選に伴い、新たに御就任していただいた方もいらっしゃいますので、委員の皆様を御紹介いたします。

お手元の「千葉市こども未来局指定管理者選定評価委員会 委員名簿」を御覧ください。お名前、職名等により御紹介させていただきます。千葉経済大学短期大学部こども学科准教授、浅川繭子様。

○浅川委員 よろしくお願ひします。

- 事務局 淑徳大学総合福祉学部教育福祉学科教授、伊原浩昭様。
- 伊原委員 はい。よろしくお願いします。
- 事務局 千葉市 PTA 連絡協議会副会長、加瀬紗和様。
- 加瀬委員 はい。昨年度に引き続き、どうぞよろしく願いいたします。
- 事務局 公認会計士、福澤恵二様。
- 福澤委員 よろしく申し上げます。
- 事務局 弁護士、三浦基子様。
- 三浦委員 よろしく申し上げます。
- 事務局 続きまして事務局職員の紹介をさせていただきます。まず先ほど御挨拶を申し上げました、こども未来部長の山口でございます。
- 山口こども未来部長 どうぞよろしく願いいたします。
- 事務局 次に、幼児教育・保育部長の小名木でございます。
- 小名木幼児教育・保育部長 小名木でございます。どうぞよろしく願いいたします。
- 事務局 次に、こども企画課長の高澤でございます。
- 高澤こども企画課長 高澤でございます。よろしく願いいたします。
- 事務局 また本日は、千葉市子育て支援館の施設所管である幼保支援課長の上田、千葉市子ども交流館の施設所管であるこども企画課こども若者支援室長の石井、千葉市少年自然の家の施設所管である健全育成課長の加曾利の3名が、議題（2）以降、施設所管ごとに入れ替えにて御説明等させていただければと存じます。
- それでは、議事に入らせていただきますが、会長選任までの間は、仮議長をこども未来部長が務めますので、よろしく願いいたします。
- 山口こども未来部長 それでは、会長選任まで、仮議長を務めさせていただきます。まず、議題（1）の「会長及び副会長の選任について」でございます。会長及び副会長の選任は、「千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例」第10条第2項の規定によりまして、委員の皆様の互選により定めることとなっております。委員の皆様の御意見などはいかがでしょうか。
- 福澤委員、よろしく願いいたします。
- 福澤委員 それでは、私から御推薦申し上げたいと思います。会長には、学識経験者から他の指定管理者選定評価委員会で委員の御経験もある伊原委員、副会長にはこれまでも副会長をお務めいただいております、三浦委員に引き続きお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。
- 山口こども未来部長 ありがとうございます。ただ今、福澤委員より、会長に伊原委員を、副会長に三浦委員をとこの御発言がありました、皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。
- それでは御異議がないようですので、伊原委員に会長を、三浦委員に副会長をお願いしたいと存じます。なお、会長と副会長の任期でございますが、特に規定はございませんが、委員の任期と同様ということで、同じ期間とさせていただきたいと存じます。御協力どうもありがとうございました。それでは、進行は一度事務局に戻させていただきます。

○事務局 それでは恐れ入りますが、伊原委員は会長席に、三浦委員は副会長席に御移動をお願いいたします。

それでは伊原会長、三浦副会長より、順に御挨拶を頂きたいと存じます。まずは伊原会長からよろしく願いいたします。

○伊原会長 御指名を受けまして、会長を務めさせていただきます伊原と申します。よろしくお願い申し上げます。子育て支援館と子ども交流館、少年自然の家は千葉市民の子育て支援、また子どもたちの健全育成を図る本市の中核的な施設となっております。本日の委員の皆様には十分御審議いただき、御忌憚のない多くの意見をいただきたいと思います。どうぞ御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

○事務局 ありがとうございます。続きまして三浦副会長、よろしくお願い申し上げます。

○三浦副会長 副会長を努めます、弁護士の三浦と申します。再任された委員の方、そして新たに選任された委員の方、活発な議論ができるよう、会長を支えてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局 ありがとうございます。では、以後の議事進行につきましては、伊原会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。

○伊原会長 改めましてよろしくお願い申し上げます。それでは早速ですが、議題（２）以降の各施設の評価に入らせていただきます。

議題（２）「千葉市子育て支援館 施設管理に係る年度評価について」事務局より説明をお願いいたします。

○上田幼保支援課長 改めまして、幼保支援課の上田と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。では、失礼ですが座って御説明申し上げます。お手元の資料１－２－１「指定管理者年度評価シート」を御覧いただければと思います。

「１ 公の施設の基本情報」となります。施設の名称は「千葉市子育て支援館」、条例上の設置目的は、「乳幼児の健やかな育成を図るとともに、子育て家庭を支援する。」ということになっております。ビジョンになりますけれども、「乳幼児の健やかな育成や子育て家庭を支援するとともに地域の子育て支援拠点施設の基幹施設としての役割を果たすことで、子育て支援の充実を図り、子どもを産み育てやすい環境を創ること。」としております。ミッションと制度導入により見込まれる効果は記載のとおりでございます。成果指標と数値目標につきましてはこの後の御説明の中で言及させていただきます。

それでは、「２ 指定管理者の基本情報」でございます。まず、指定管理者は「公益社団法人千葉市民間保育園協議会」、指定期間は「令和４年４月１日から令和９年３月３１日まで」となっております。今回は指定期間の３年目の運営に関する評価ということになります。

続いて２ページ目をお願いいたします。「３ 管理運営の成果・実績」でございます。数値目標は、選定の際に指定管理者の設定した数値でありまして、市の設定した数値目標と、それらに対する達成率につきましてはそれぞれ下段のほうに括弧書きで記載させていただきました。こちらの市の設定した達成率が、後ほど説明いたしますけれども、５ページにあります「５ 管理運営状況の評価」の目安となります。

では「(1) 成果指標に係る数値目標の達成状況」の一つ目、施設利用者数につきましては、令和6年度は6万6,153人となりまして、指定管理者の数値目標である6万4,200人では達成率103%、市の数値目標であります6万4,000人との比較は、達成率103.4%となっております。なお右下の参考に記載がございますけれども、表でございますね、前年度と比較して来館者は2,179人増、前年度比103.4%と評価しております。続きまして、利用者アンケートにおける利用者満足度につきましては、数値目標の80%を超える85.4%となっております、高い水準を獲得しております。次のファミリー・サポート・センター提供・両方会員の新規登録者数につきましては、年52人増となりまして94.5%と指定管理者の目標数値である年55人増には僅かに至りませんでしたけれども、市の数値目標であります年50人増に関しましては達成率が104%となっております。

続いて(2)でございます。その他の利用状況を示す指標についてでございますけれども、一つ目の相談件数につきましては令和5年度が1,814件、令和6年度が1,390件となりまして、こちらは前年度比76.6%減少している状況でございます。次のファミリー・サポート・センター事業の会員数につきましては、令和5年度が5,033人、令和6年度が5,019人、前年度比で99.7%となっております。会員数の減少は、減少というよりは現状維持に近いわけですが、僅かに減少したところにつきましては、第3期から続いております長期的な課題ですけれども、引き続き、市政だよりですとか、あるいは子育て支援施設への出張説明会等で周知を図りまして、会員増加に努めていただきたいというふうに考えております。続いて、ファミリー・サポート・センター事業の活動件数でございますけれども、こちらは令和5年度が5,573件でしたが、令和6年度は6,332件、前年度比で113.6%増加をしております、保育園等や習い事などの継続的な送迎の御依頼ですとか、同行支援の依頼が増加したことによるものと考えております。

続いて、3ページ目をお願いいたします。「4 収支の状況」でございます。まず、「(1) 必須業務収支状況」の「ア 収入」でございますが、一番下の合計という欄を御覧いただきますと、実績が6,783万2,000円でございます、計画の6,778万5,000円よりは若干多くなっております。こちらがですね、想定を超える実習生の受け入れがありまして、各施設から得られました受入れの謝礼収入が少し見込みを上回ったということでございます。続いて、「イ 支出」でございますけれども、こちら表が2ページにまたがっております恐縮ですが、これも合計欄を御覧いただきたいので、4ページ目の一番下の合計欄を御覧いただければと思います。実績が6,879万円、計画額よりも100万5,000円ほど多くなっております。こちらのほう、要因としましては、その他事業費のところでも事務機器ですとか、AEDなどの賃貸借料、昨年度から引き続き過去のアンケートでも御意見がありましたコイン式の利用者用のロッカーを、お子様を抱っこしながら利用しやすいような鍵式のロッカーに変更することによりまして、備品の購入費が増えたということでございます。

次に「(2) 自主事業の収支状況」でございます。この自主事業というものは必須事業には含まれていないのですけれども、指定管理者が設置目的を果たすために必要であると考えた事業で、主に施設の職員の知識や技術などでは対応の難しいものについて実施しているものでご

ございます。例えば、お子様の撮影の仕方を学ぶフォト講座、ヘアカット講座、親子ヨガなどが実施されております。自主事業の実績につきましては、収入・支出の実績ともに 22 万 8,000 円でございます。

続きまして 5 ページを御覧ください。「(3) 収支状況」でございますが、必須業務・自主事業合わせました収支は 95 万 8,000 円の赤字ということでございます。収支状況につきましては以上になります。

続きまして、「5 管理運営状況の評価」についてでございます。こちら、2 ページ目で説明いたしました管理運営の成果・実績につきまして、市の設定した数値目標に対する達成状況を一番下の囲みの中に記載している【評価の内容】に基づきまして評価をするものでございます。この破線の中に評価の内容、各評価の意味が記載されております。

まず、「(1) 管理運営による成果・実績」のうち、施設利用者数につきましては、実績値は 6 万 6,153 人。こちらが市の成果目標の 6 万 4,000 人の 103%となっておりますので、評価の内容というところ、破線の中に照らし合わせまして評価は C とさせていただきます。次に利用者アンケートにおける利用者満足度につきましては、目標値の 80%に対しまして、実績は 85.4%、達成率は 107%でありましたので、B 評価となっております。それから 3 つ目は、ファミリー・サポート・センター提供両方会員の新規登録者数につきましては、目標値が 50 人だったことに対しまして、新規登録者数が提供会員のプラス 35 人、両方会員がプラス 17 人、合計 52 人と、市の目標を上回りまして達成率が 104%でありましたので、こちらは評価を C とさせていただきます。

続きまして「(2) 市の施設管理経費縮減への寄与」でございます。こちらは選定時の提案額に対する指定管理料の実績額の削減率を評価するものでありますけど、提案額と実績額が同額でございましたので、次の 6 ページの頭にあります破線の中、【評価の内容】に照らしまして、削減率 0%ですから C 評価となります。

続きまして「(3) 管理運営の履行状況」でございます。こちらですね、大きな表が 6 ページから 8 ページまで 3 ページに渡って掲載させていただいておりますけども、指定管理者による自己評価というものがまずあります。それに対して市の評価というものを並記してございますけども、「1 市民の平等利用の確保」、「2 施設管理能力」、「3 施設の適正な管理」、「4 施設の効用の発揮」、「5 その他提案事項」、いずれも自己評価、市の評価ともに C 評価ということになってございます。こちらの評価につきましては配布資料の資料 1-3 の「モニタリングレポート」の結果をですね、資料 1-2-2 の「算出表」というものに当てはめまして、評価区分を決定しているものでございます。

続きまして 9 ページをお願いいたします。「(4) こども未来局指定管理者選定評価委員会の意見を踏まえた対応」というところでございます。こちらは昨年度のこの委員会でいただきました御意見に対する改善の内容を記載しております。昨年度、具体的には一つ、御意見をいただいております、「意見の内容」というところですが、「オンラインや SNS を活用した利用者促進及び情報提供の工夫について、より一層努められたい。」というご意見をいただいております。この点につきましては、まず子育て支援館ホームページにつきまして、スマートフォ

ンで閲覧したときに一部フォームが崩れるという不具合が、見づらい点がありました。イベントの予約等を行うイベントカレンダー等を、9月、つい最近見やすくリニューアルしていただきました。またファミリー・サポート・センターの利用登録申請につきまして、従来から紙ですとか電子メールで利用登録申請を受付しておりましたけれども、二次元コードですとか定型のメールフォームを作成しまして、特に電子メールでの申請を従来よりも円滑に行えるようにしていただいております。今後さらにですね、会員活動を活発化させることを目標としまして、多くの会員に情報が浸透するように情報一斉発信のシステム整備を行う予定となっております。

続いて「6 利用者ニーズ・満足度等の把握」につきましては、指定管理者が、初めて来館する方向けに実施しております「はじめましてアンケート」、それからリピーター来館者様に配布する「支援館アンケート」、あるいは「ひろば・イベントに参加された方向けのアンケート」、それから館内に設置した「ご意見ポスト」に投函いただいたもの、それから、利用者支援事業としてのアンケート、これら5つを実施しております、回答者数は合計で3,255件でございました。結果につきましては、10 ページを御覧ください。全てをこちらで御紹介することは時間の都合上、難しいのですけれども、特筆すべきところとしましては、中ほどの上から2番目の項目の「支援館アンケート」というものがあって、2の「(3) スタッフの対応」というものがございます。5段階評価で上位2項目の「たいへんよい」「よい」と回答いただいたものは、受付でのスタッフの対応は95.4%。ホール内でのスタッフの対応は95.4%。スタッフに気軽に相談しやすい雰囲気は87.6%となっております、3項目とも昨年度以前から引き続き高水準を維持しております。また、「(4) 目的に対する満足度」ということにつきましても、高い満足度を得ている状況であります。

その他の説明は割愛させていただきまして、11 ページに進んでいただけます。「(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応について」でございますが、まず一つ目、子ども用の椅子の足に滑り止めをつけてほしいという意見がありました。それから、二つ目として、授乳室の放送音が大きすぎるという御意見がございました。一つ目につきましては、プレイルームの子ども用の椅子の足に滑り止めのキャップをつけて対応いたしました。二つ目の音量に関しましては、各イベントの開始時など館内アナウンスを行なっております、その際の授乳室の放送音が大きいという御意見があったというわけですが、授乳室はプレイルームとは別に室内の音量調節ネジがついております、他の部屋よりも音量が大きい位置になっていたということがありましたので、適切な位置に戻しまして、音量の調節ネジであることの表示をして、職員が適宜見回りをして、その位置を確認するという措置を講じていただいております。どちらも、改善の内容につきましては、館内掲示ですとかホームページに掲載させていただいております。

最後、「7 総括」の「(1) 指定管理者による自己評価」になりますけれども、こちらCの評価をつけられております。指定管理者の所見に関しましては、まず市の保健福祉センターで行う父親母親学級に出向いて、出産後に気軽に来館いただけるようにプレパママへの広報に力を入れた。さらに、基幹業務や関係機関との連携を深める利用者支援事業の一環として、子

育て支援施設との情報交換会というものを新たに年 2 回行った。また、ファミリー・サポート・センター事業につきましては、子育てリラックス館等への出張相談会ですとか、依頼の需要が高い地区に出向いて、提供・両方会員の増加に向けた広報を行うなど会員確保に積極的に取り組むとともに、全体交流会や研修について、対面・オンラインのハイブリッド開催を行って、会員の方々が参加、活動しやすくなるように努めたということで C 評価でございます。

続きまして、「(2) 市による評価」でございます。こちらが 11 ページから 12 ページに渡っておりますけれども、こちらは、この資料の 5 ページ目から 8 ページ目にある「5 管理運営状況の評価」の (1) から (3) の各項目の市の評価の割合を「総括評価の目安」することとされております。子育て支援館につきましては、15 項目中 B が 1 項目、C が 14 項目というふうになってございます。こちらを、資料がいろいろあって恐縮ですけども資料 4 - 3 の【総括評価の目安】に当てはめまして、「評価項目の「D が」20%以下かつ評価項目に「E」がない。」というものに該当しておりまして、「概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。」ということで、市の評価も C というふうになってございます。

右側の所見という欄でございますけれども、来館者数が、6 万 6,153 人でありまして、就学前のお子さんが、今千葉市は残念ながら減少している状況なのですが、さらに保育所を使われる方が増えております。どんどん保育所を使う方の割合が増えていきます。そうした中で子育て支援館というのは、主に保育所に通っておられない時間帯を使うものなので、単純に考えると来館者数は減っていてもおかしくないなというところでありまして。そうした中でも、提案にありました目標数値 6 万 4,200 人を達成しておりまして、周知の強化ですとか、日々の業務に取り組んでいただいた結果である、子育て支援拠点施設として一定の機能を果たしているものと評価しております。また、利用者アンケートからは引き続き高い満足度を得ておりまして、この点についても同様に評価をしているところです。こちら地域子育て支援拠点の基幹施設という位置づけとなりまして、他の施設の統計の取りまとめですとか、翌月に実施する講座等の情報収集、ホームページ・X 等での情報発信、定期的な連絡会議等を開催しまして、他の施設との連絡調整ですとか、他の施設の職員へのアドバイス等を行うなど、そうした役割を十分に果たしておられると考えています。また、ファミリー・サポート・センター事業につきましては、全体の会員数は前年度よりも減少して、これももう本当に有料ボランティアということで、ボランティアの方の獲得というのは難しい状況になっているんですけども、会員全体の数としては前年度よりも減少してしまいましたが、提供会員数、活動件数は増加しております。これは、子育て支援拠点施設等への出張説明でありますとか、需要の高い地区へ出向いて広報を行ったことですとか、あるいは活動報告書の簡略化ですとか、全体交流会・研修などの対面・オンラインのハイブリッド開催など、会員が参加・活動しやすくなるように工夫されて、会員確保ですとか会員数維持に向けて取り組んでいただいた結果であると評価しております。全体としまして、満足度の高いサービスを継続的に提供しておられまして、対面とオンラインそれぞれの特性を生かした取り組みの実施ですとか、ホームページ・SNS 等による情報発信を充実させるなど、一定の評価を上げておりますので、C 評価というふうにさせていただいております。

長くなりましたが、説明は以上となります。

○伊原会長 ありがとうございます。年度評価シートの7の「(3)委員会の意見」については、事務局のほうで事前に御意見を聞いているということですが、どのようなものがあったか御紹介願えますでしょうか。

○高澤こども企画課長 こども企画課長の高澤でございます。着座のまま失礼いたします。

千葉市子育て支援館の施設管理に係る年度評価につきまして、事前にいただいた御意見を御紹介させていただきます。

まず伊原会長から4点ございまして、一点目が、「6年度施設利用者数は6万6,153人で、昨年度より2,000人以上も増加、ファミサポ活動件数も6,332件で、昨年度より約760件増加と、着実に実績を積み成果を上げている。」、2点目が、「育児不安等子育てに関する相談・指導の実施について、来館相談件数が1,390件あった。子育てに関する相談ニーズに対応していることを示している。今後も力を入れてほしい。」、3点目ですけれども、「利用者アンケートの結果は高い満足度が得られている。特にスタッフに気軽に相談しやすい雰囲気が87.6%であることは注目される。」、次に、4点目ですけれども、「千葉市が子育て支援に力を入れていることをこれからも十分PRしていただきたい。」、との御意見をいただきました。

また、福澤委員より、「事務局において作成された財務分析の資料を拝見する限り、指定管理者の事業の遂行に直ちに支障を来すような財務リスクは確認されない。」、との御意見を頂戴いたしました。

説明は以上となります。

○伊原会長 ありがとうございます。あらかじめいただいた御意見の修正や、あるいは補足すべき点のほか、追加の御意見や年度評価への御質問等ありましたら、皆様から御発言をお願いいたします。

○上田幼保支援課長 会長、よろしいですか。資料の訂正を1点お伝えすることはできますでしょうか。

○伊原会長 はい。お願いいたします。

○上田幼保支援課長 お手元の年度評価シートの6ページ目でございます。「(3)管理運営の履行状況」の表であります、「4 施設の効用の発揮」「(1)開館時間・休館日」と「(2)利用促進の方策」というところ、一番右の特記事項に「概ね提案書通りの人員配置が行われている」と書いてあり、この下の人員配置の項目と同じこと書いてしまった、こちらの作成ミスがありまして、正しい記載は、「千葉市子育て支援館設置管理条例第4条の規定どおり開館した。」それから、「館内ご意見ポストだけでなく、新規来館者や年4回の来館者へのアンケートの他、イベントごとにアンケートを実施し、また、アンケート結果等を踏まえ、管理運営に関する自己評価を行い、運営に反映した。来館者に対しては常に誠実かつ積極的に対応しており、アンケートからも好感を得られていることがわかる。」となります。後程書面で訂正させていただきます。大変失礼いたしました。

○伊原会長 わかりました。4の(1)(2)のところですが、(3)の人員配置と同じ記載になっておりますので、この後で事務局のほうから修正いただけるということですので、よろしいでし

ようか。

それでは改めまして、追加の御意見や説明がありました年度評価への御質問等ありましたら、御発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

○三浦委員 よろしいでしょうか。

○伊原会長 はい。三浦委員お願いします。

○三浦委員 三浦です。9ページに御紹介いただいている、昨年度のこちらの委員会から申し上げた意見に対して、非常に早期に取り組んでいただいたということが非常に評価できる点だと思います。

このオンラインですとか SNS の活用というものに関してが、せっかくこういった素晴らしい施設なので、きちんと利用のニーズのある方に届けてほしいということですか、あるいは利用者の方が、より利用しやすいように工夫をしていただきたいという趣旨で、このような意見を出させていただいたと記憶しています。そういったところで、この申請について、より円滑な方法を早期に取り入れていただいたということは、利用者の方の満足度をさらに高めるものではないかと思います。

こういった施設があるという情報発信については、施設を運営している主体だけではなくて、利用者の方が、例えば SNS であるとか、そういったところで情報発信を図るところでも、より、こういった施設があるんだ、この施設は良い施設なんだ、あるいは千葉市全体が子育て支援に力を入れているということのアピールがより多くの人に知っていただける機会になるかと思しますので、このように早期に対応いただいたことというのをとても評価したいと思います。以上です。

○伊原会長 事務局のほうはそれに対しては特によろしいですか。

○上田幼保支援課長 ありがとうございます。口コミで良い情報が伝わるとするのは、非常に良いと思いますので、そういう側面でもこれから頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。

○伊原会長 三浦委員のほうから、昨年度の委員会からの意見を踏まえた対応ということで、情報発信を早速図って、早期に対応して下さったということに対して、よく取り組んでいるなという御意見でございました。

そのほか御意見や御質問ございますでしょうか。

○浅川委員 はい。

○伊原会長 浅川委員お願いします。

○浅川委員 すみません。ちょっとわからないところがあるので質問します。来館者数が記載されていますけれども、その内初めていらした方っていうのはどこを見ればわかるのでしょうか。「はじめましてアンケート」のほうを見ても回答数が項目によって違ったりするので、どこのところを見ればいいのか、教えてください。

○上田幼保支援課長 ちょっとデータがありそうなので少し御猶予いただければと思います。

○伊原会長 浅川委員のほうから来館者数の数値について御質問がありましたので、ちょっと事務局のほうで調べてください。

- 上田幼保支援課長 令和6年度に初めて来館された方の数でしょうか。
- 浅川委員 はい。
- 事務局 幼保支援課の長嶋と申します。子育て支援館に初めて御来館いただいた利用者数とのことなんですけれども、利用者数というところではカウントはしていないんですけれども、新規組数ということで把握をしておりました。こちらが実績報告書、資料1-5の13ページになります。指定管理者から提出があったもので、「2 管理施設の利用状況」というページがございます、「来所の状況」というところの下から2番目、新規組数という欄がございます、年間で5,155組に御来館いただいております。
- 浅川委員 はい。ありがとうございます。
- 伊原会長 資料1-5の13ページですね。その新規組数というところを見ますと、5,155人が6年度の新規、初めての来館者数となるということでございました。
- そのほか御意見御質問等ありますでしょうか。加瀬委員、お願いいたします。
- 加瀬委員 昨年度の会議で、子育て支援館の空調につきまして、夏場ですね、熱中症の対策というところで、こどもが顔を真っ赤にしながらか暑くて遊んでいて、たまたま、そのときは施設の方に「暑い」と申し出があって空調を下げるのができた、というところで、こちらから意見といいますか提案をさせていただいたことがあったんですけれども、こどもでも訴えることができるように、壁などにひらがなで「あつときはこえをかけてね」のような掲示をするのはいかがでしょうかということを発表させていただいたんですけど、それがその後どのような結末になったかちょっと気になりまして、もしわかれば教えていただきたいところがあるんですけれども、いかがでしょうか。
- 上田幼保支援課長 恐らく、子ども交流館でしょうか。子育て支援館ではその御指摘はいただいておりますでした。
- 三浦委員 昨年度も委員をしていたので若干私の記憶を説明させていただくと、子育て支援館は乳幼児向け、基本的に親御さんがついてこないと来られないようなお子さんたちの施設で、子ども交流館はもう少し大きい、一人でも来て遊べるような子たち、18歳未満までの子たちを対象にした施設で、そちらの子ども交流館、お子さんたちで来館する方の施設でそういったような事例があったということで、先ほど加瀬委員が述べられたような意見があったと記憶しています。実際、本日いただいている資料2-2-1の9ページ目のところにも、昨年度こういった意見がありましたということで、それに対する対応をいただいているかと思います。
- 加瀬委員 ごめんなさい。施設が違いました。失礼しました。
- 伊原会長 ちょっと似ている名前ですからね。三浦委員、補足いただきありがとうございます。
- そのほか、御意見や御質問はありますか。はい。福澤委員、お願いします。
- 福澤委員 資料1-2-1の2ページのところで、各種指標をまとめていただいて、おおむね良好な結果になっていて、大変良いことかなと思います。そんな中で、相談件数について結構減っている数字が出ておりますので、相談が減ること自体がネガティブということではないと思うんですけれども、このあたり事務局のほうで何か、背景として何か把握されていることが

あれば教えていただきたいということと、もしちょっとよくわからないことであれば、大きく指標が動いたときというのは良いにせよ悪いにせよ何かのサインである可能性があるので、今後注意深く見ていただければというふうに思いました。

○上田幼保支援課長 御指摘ありがとうございます。なぜ減ったのかはわからないというのが実情ではあります。相談件数は多ければ良いというものでもないので、なかなか評価は難しいところなのですが、先ほどスタッフの対応が良好な評価をいただいているということを申し上げましたけれども、相談しにくいというふうにはなっていないと理解しておりますので、何故減ったか、相談の内容を突き詰めてみるとこういう相談が減ったとかということが評価できるかもしれないので、そこは御指摘のとおり、もう少し分析してまいりたいと思います。ありがとうございます。

○伊原会長 今後も引き続き、背景については調べていきたいということですが、よろしいでしょうか。

○福澤委員 ありがとうございます。

○伊原会長 そのほかありませんでしょうか。よろしいですか。

それではですね、ここまでの御議論を踏まえまして、年度評価シート7の「(3) 委員会の意見」をここで整理させてもらいたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員の皆様のお意見をまとめますと、御説明いただきました市による評価のとおり、おおむね良好な管理運営が行われているということが認められると考えられます。また、先ほどありましたように、昨年度の当委員会の意見をきちんと踏まえた対応も適切に図ってくださっておりますので、評価できます。あらかじめ福澤委員にチェックしていただきましたが、指定管理者の財務状況について、現状において特段の問題はないと認められます。その他にも、利用者の増加の実績をきちんと積み重ねていくとか、また非常に相談しやすい雰囲気があるという利用者アンケートの結果があるとかですね、非常に前向きに頑張っているということですので、これを踏まえて、さらなる利用促進のために、他施設との連携や周知方法の工夫をさらに一層努めてもらいたい、そのような形で意見をまとめていきたいと思いますが、委員の皆様もよろしいでしょうか。

はい。特に昨年度の委員の意見もきちんと踏まえているというのは評価できると思います。それでは、もし皆様がよろしければ、ただいま整理した事項を委員会としての意見とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、議題(2)「千葉市子育て支援館 施設管理に係る年度評価について」、委員会としての意見は、ただいま整理した内容を基本として、詳細につきましては私と事務局にて調整するという御了承いただければと思います。よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。それでは、事務局の説明員のほう、交代をお願いいたします。

大丈夫ですか。それでは次に、議題(3)「千葉市子ども交流館 施設管理に係る年度評価について」、事務局より説明をお願いいたします。

○石井こども若者支援室長 こども若者支援室の石井でございます。どうぞよろしく願いいたします。恐れ入りますが、座って御説明させていただきます。

それでは、子ども交流館の指定管理者年度評価シートにつきまして御説明させていただきます。資料2-2-1「令和6年度 指定管理者年度評価シート」を御覧ください。

まず「1 公の施設の基本情報」でございます。施設名称は、「千葉市子ども交流館」、条例上の設置目的は、「子どもの健全な育成と交流を図る。」、としております。

次に「2 指定管理者の基本情報」でございます。指定管理者は、「千葉ミライ子どもプロジェクト事業体」で、代表団体は「アクティオ株式会社」、構成団体は「テルウェル東日本株式会社」でございます。指定期間は「令和4年4月1日から令和9年3月31日まで」の5年間となっております。今回が指定期間の3回目の年度評価となります。

2ページをお願いいたします。次に「3 管理運営の成果・実績」でございます。「(1) 成果指標に係る数値目標の達成状況」でございますが、1つ目の利用者数につきましては、指定管理者の設定した令和6年度数値目標10万人に対し、実績は10万9,262人、達成率は109.3%となっており、目標を達成することができました。2つ目の利用者満足度につきましては、数値目標85%以上に対し、実績は95.9%、達成率は112.8%となっており、目標を達成することができました。3つ目の出張講座実施回数につきましては、数値目標8回に対し、実績は9回で、達成率は112.5%となっており、目標を達成することができ、指定管理者の設定した令和6年度の3つの目標につきましては全て達成したものでございます。なお、市の設定した数値目標とそれに対する達成率につきましては、それぞれ下段に括弧書きで記載しております。この達成率が5ページの管理運営状況の評価の目安となるものでございますので、こちらの後ほど、御説明させていただきます。

続きまして同じページ、「4 収支状況」でございます。まず「(1) 必須業務の収支状況」でございますが、「ア 収入」を御覧ください。表の一番下、合計の欄の2段目、年度計画額1億479万9,000円に対し、その上の実績額1億496万4,000円となりました。計画と実績の差異の主な要因につきましては、イベント参加者の増加等による参加費収入の増によるものでございます。3ページをお願いいたします。「イ 支出」を御覧ください。まず初めに、資料の内容に誤りがございますので、訂正のお願いとなります。上から3項目目の管理費でございますが、一番右の主な要因の記載で、「楽器やアリーナなどの必要備品が国の補助金に購入できたため」とございますけれども、「国の補助金」ではなく、正しくは「市の基金」を活用したものでございます。説明を続けさせていただきます。支出の表の一番下、合計の欄でございますが、年度計画額1億479万9,000円に対して、実績額が1億508万6,000円となりました。計画と実績の差異の主な要因につきましては、感染防止対策に係る消耗品費の減少や入退館システム機器のリースアップによるシステム使用料の減がありましたが、一方で、繁忙期対応のための非常勤職員の増員等による人件費の増や、昨今、原油価格等の高騰の影響により、光熱費の上昇もあり、計画よりも28万7,000円の増となったものでございます。

続きまして、4ページをお願いいたします。「(2) 自主事業収支状況」でございます。「自主事業」は必須業務には含まれていないものの、指定管理者が施設の設置目的を果たすために必

要であると考えた事業を実施するものであり、乳幼児向けのプログラムや、小学生から高校生を対象とした「夏休み・まんが教室」、中高生を対象とした「プラネタリウムコンサート」などを開催しております。自主事業の実績につきましては、収入が81万5,000円、支出が79万4,000円で2万1,000円の黒字となっております。

次に「(3) 収支状況」でございます。指定管理者の業務としての必須業務と自主事業の2つに分けた後、それぞれの収支を合算した総収入と総支出を記載してございます。まず、「必須業務」の収支につきましては、12万2,000円の赤字、「自主事業」の収支につきましては2万1,000円の黒字となり、総収支といたしましては10万1,000円の赤字となりました。原則、収支に赤字が生じた場合にあっては、市がこれを補填することはありませんが、昨今の原油価格・物価高騰の影響を受けまして、光熱費の料金の上昇により収支の不足が生じておりますので、これにつきましては公の施設の安定的な管理を目的としまして、国の交付金を活用しまして、指定管理者である事業者に対して、光熱費支援金を支給したところでございます。収支状況につきましては以上でございます。

5ページをお願いいたします。次に、管理運営状況の評価でございます。先ほど2ページ目で説明いたしました管理運営の成果・実績について、市の設定した数値目標に対する達成状況をページの真ん中の囲みの中に記載している【評価の内容】に基づき評価するものでございます。まず、利用者数につきましては、市の設定した数値目標に対する達成率が117.5%であり、B評価としております。次に、利用者満足度につきましては、市の設定した数値目標に対する達成率が119.9%であり、B評価としております。次に、出張講座実施回数につきましては、市の設定した数値目標に対する達成率が128.6%であり、A評価としております。

続きまして、「(2) 市の施設管理経費縮減への寄与」でございます。こちらは選定の提案額に対する指定管理料の実績額の削減率を評価するものでございますが、提案額と実績額が同額でございましたので、削減率0%で、C評価としております。

6ページをお願いいたします。次に「(3) 管理運営の履行状況」でございます。各項目につきまして、指定管理者の自己評価と市の評価を記載しておりますが、市の評価につきましては、資料2-3のモニタリングレポートの結果を資料2-2-2の算出表に当てはめ、評価区分を決定しております。ここでは、自己評価と市の評価が異なる項目につきまして、簡単に説明させていただきます。表中下段、「4 施設の効用の発揮」の「(1) 利用者への支援」から「(3) 利用者意見聴取・自己モニタリング」につきまして、自己評価はBとなっておりますが、市の評価につきましては、通常利用時における利用者満足度の把握のために、利用者が気軽に回答できるよう、シール式のアンケートを開始し、合計2,584件の回答を得たことや、本施設の周知、新規登録者の獲得を目的とした出張講座を、学校に加え幕張メッセや生涯学習センター等において計9回実施したことを高く評価し、A評価としております。以降は、自己評価と市の評価はそれぞれC評価ということで差異はございませんので、説明を割愛させていただきます。

ページ飛びまして9ページをお願いいたします。一番上の「(4) こども未来局指定管理者選定評価委員会の意見を踏まえた対応」でございます。昨年度、委員会でいただきました御意

見に対する対応・改善の内容について記載しております。

2 件ございまして、まず 1 点目、「こどもの健康や安全に配慮した施設管理について、こどもにわかりやすい表示を心がけるとともに、こどもの声を反映した運営に、より一層努められたい。」、こちら先ほど加瀬委員様からの御質問についてお答えさせていただければと思います。こちらにつきましては、インフルエンザの流行時には、館内において厚生労働省・千葉県がこども向けに作成した「みんなで予防インフルエンザ」ポスターをプレイルーム入口等の目につきやすい箇所に掲示し、スタッフと利用者相互で感染症対策を促しました。また、台風や地震等の非常時には、ロビーに設置してあるテレビでリアルタイムの情報を共有し、利用者とも共通理解を図ったところでございます。次に、「出張講座の開催促進のため、学校現場への周知について検討されたい。」という御意見につきましては、小学校に電話等で連絡を行い、出張講座を希望する学校を増やしたことに加え、小学校以外には幕張メッセや、生涯学習センターでの出張講座を継続的に実施し、数値目標を上回ることができました。また、7 年度の実施に向け、ホームページへの掲載や、市内小学校にチラシを配布する広報に努めているところでございます。

続きまして、「6 利用者ニーズ・満足度等の把握」でございまして、「(1) 指定管理者が行ったアンケート調査」でございまして、子ども交流館におきましては、受付ロビーに常時設置している利用者アンケートで 15 件、「児童福祉週間」及び「子育てふれ愛フェスタ」のイベント開催時に特別アンケートを実施して、計 238 件の御意見をいただいたほか、通常利用時における利用者満足度把握のため、毎月、休日と平日の 2 回、シール式のアンケートを実施し、合計 2,584 件の回答をいただいております。

一例を御紹介させていただきますと、「(1) 利用者アンケート等」につきましては、2 つ目の黒丸ですが、10 歳のお子さんから、「アリーナのところに、できたら野球ができる場所を置いてほしいです。交流館はとても楽しいので、これからも頑張ってもらいたいです。」や、その下の黒丸、保護者の方から、「おそろしく暑いのでアリーナやプレイルームで遊べるのはとてもありがたいです。広くて素晴らしい施設です。夏休み中も、子どもを外に出せないし、経済的にも習い事をさせる余裕がないので交流館は貴重な場です。」といった感想などが寄せられております。

10 ページをお願いいたします。次に「(2) 特別アンケート」のプログラムごとの評価について、「児童福祉週間」のアンケートでは 5 段階評価で最高の星 5 つ、次点の星 4 つをつけた方が全体の 93.4%を占めておりました。また、ページ中段「子育てふれ愛フェスタ」においては、同じく星 5、星 4 をつけた方が全体の 92.9%を占めるなど、多くの方から高い評価をいただいたところでございます。

次に、ページ下段「(3) 通常利用時アンケート」では、毎月 2 回、利用満足度を 5 段階に分けたシートへシールを貼り付けて評価を実施してございまして、「とても楽しかった、是非また来たい」、や「楽しかった、また来たい」と評価してくれた方が全体の 95.9%を占め、多くの方から高い評価をいただいたところでございます。

11 ページをお願いいたします。「(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応」

でございます。まず1つ目ですが、主な意見につきましては、「調理イベント・オープンキッチン講座において、こどもと一緒に参加する大人もマスクをちゃんとすべき。食べ物を扱う調理室に入室する場合、全員マスクを着用するのが常識ではないか」という御意見がございました。調理室の入室につきましては、あらかじめ保護者の方々にもマスク着用をお願いしておりますが、着用を徹底できなかった場面があったことから、調理室入口に入室にはマスクの着用が必要なことを提示し、イベントが始まるタイミングで職員からマスクの着用を再度要請することで、調理室内にいる全員のマスク着用を徹底する対応を行なったところでございます。2つ目、「みんなでレクリエーション」イベントにおいて実施したe-スポーツにつきまして、少人数でしかプレイできず、参加者に待ち時間が発生したこと、企画側は子どもの希望の中からみんなの取り組めるスポーツや遊びやルールを、全員で遊べるメニューを考えてほしい」との御意見が複数ございました。こちらにつきましては、こどもたちからのテニスをしたいという希望を踏まえ、試行的にe-スポーツを実施したところですが、運営面の課題がございましたので、引き続きこどもたちの希望を踏まえつつ、体力差や体格差、経験や興味の違いのある1年生から6年生までができるだけ一緒に楽しく動けるような遊びやスポーツについて実施できるよう工夫をしているところでございます。

12ページをお願いいたします。最後に、「7 総括」でございます。まず「(1) 指定管理者による自己評価」でございますが、こちらB評価としております。指定管理者の所見といたしましては、令和6年度来館者数は前年度比116.8%で、10万7,312人であり、新型コロナウイルス感染者の影響がなかった令和元年度の来館者数13万8,122人と比較すると、77.7%となり、前年度よりも11.2ポイント上昇している。利用者数は10万9,262人で、前年度比約116.2%、新規登録者数は前年度比110.4%の1万1,233人となった。利用者満足度につきましては、通常利用時でも、シール調査等で把握に努め、1年間で計3,064件の回答を得ることができ、95.9%もの利用者から高い利用満足度を得ることができた。出張講座は電話等で積極的に出張講座を紹介することで、小学校5校のほか、幕張メッセ等でのイベントに参加し、合計9回の出張講座を実施でき、数値目標を達成することができた。最後に、緊急時にリアルタイム情報を来館者と職員で広く共有できるよう、3階ロビーにモニターを設置し、台風情報をいち早くモニターに映して共通理解を図った、というものでございます。

次に「(2) 市による評価」でございます。総括評価につきましては、5ページから8ページの管理運営状況の評価の各項目の、「市の評価」の割合を目安としております。子ども交流館におきましては、12項目中Aが2項目、Bが2項目、Cが8項目でございました。これは資料の4-3の2ページの【総括評価の目安】において、「評価項目の20%以上が「A」又は「B」かつ評価項目に「D」または「E」がない。」に該当いたしますので、「市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。」としてB評価としております。

市の所見といたしましては、利用者数は10万9,262人と、市の目標設定及び指定管理者の目標設定を上回った。利用者満足度の把握を、従来から実施しているイベント時のアンケートに加え、提案にはなかった通常利用時における利用者満足度を把握するためのシール式アンケートを令和5年10月から開始しまして、令和6年度も継続して実施した結果、2,584件とい

う多くの回答を得ることができ、利用者満足度の把握に努めた。また、イベント時も含めた利用者満足度が95.9%と、市及び指定管理者の設定目標値を上回り、非常に高い利用者満足度を得ることができた。出張講座の実施回数は市内小学校、アフタースクール、エコメッセ等と合計9回に及び、市及び指定管理者の設定目標値を上回り、子ども交流館の魅力来館していない多くの子どもたちに伝え、来館者増に寄与する取組みを実施した。最後に、本市の子ども施策への協力体制があり、事業実施に貢献しているというものでございます。

子ども交流館の「指定管理者年度評価シート」の説明につきましては以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○伊原会長 はい。ありがとうございました。次は、先ほどと同じようにあらかじめいただいた年度評価シート、7の「(3) 委員会の意見」についてはですね、事務局のほうで事前に意見を聞いているようですが、どのようなものがあつたか御紹介をお願いいたします。

○高澤こども企画課長 はい、こども企画課長の高澤でございます。千葉市子ども交流館の施設管理に係る年度評価について、事前にいただいた御意見を御紹介させていただきます。

まず、伊原会長から4点を頂戴しておりまして、1点目が「6年度の利用者数10万9,262人、利用満足度95.9%はいずれも数値目標を大きく上回っており、大きな成果を上げている。」、2点目でございますけれども、「対象が、未就学児から18歳未満の高校生までというところが注目される。特に支援を要する子どもに健全な遊びと居場所を提供するという施設の社会的使命は重要である、支援を要する子どもの対応事業に教員免許を持った専門スタッフを配置している点も評価できる。本施設の特色的な取組として十分PRをしていただきたい。」、3点目でございます、「中学生の職場体験学習生の受け入れは、教育現場との連携事業として大切だと思う。」、最後、4点目でございますけれども、「ご意見回収箱を常設し、利用者のニーズを直接把握する仕組みが整備されている。」との御意見をいただきました。

また、福澤委員より、「事務局において作成された財務分析の資料を拝見する限り、指定管理者の事業の遂行に直ちに支障を来すような財務リスクは確認されない。」との御意見を頂戴いたしました。

以上でございます。

○伊原会長 はい、ありがとうございました。それでは、あらかじめいただいた御意見の修正や補足すべき点のほか、御説明を聞いて、追加の御意見や年度評価への御質問等ありましたら、御発言をお願いいたします。

はい、加瀬委員お願いします。

○加瀬委員 前年度の意見をすぐに反映していただき、本当に感謝申し上げます。報告いただいた内容に関しまして、十分に対応していただいたかなと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○伊原会長 はい、加瀬委員から先ほどもお話しいただきましたが、掲示等ですね、委員会の意見にすぐ対応していただいたということで、評価できるというお話でございました。ありがとうございます。

そのほか、御意見、御質問等ございますでしょうか。浅川委員、お願いします。

○浅川委員 はい、質問です。高校生が足を運ぶようなことをされていたりとか、高校生向けのこともやっつけらっしゃるのはすばらしいなと思ったんですが、先ほどの子育て支援館とも関わるんですけども、せっかく同じ建物にあるわけですが、子育て支援館と子ども交流館の交流みたいなもの、特に高校生とか大きい子どもたちに対してのものというのは、何かやっつけたりするんでしょうか。

○石井子ども若者支援室長 はい、子育て支援館の利用対象者が、乳幼児といますか、小さいお子さんで、現状、高校生年代の子どもが支援館と交流する機会がなかなか設けられていないというのがございます。相互で周知はしておりますけれども、高校生年代の子どもが子育て支援館に足を運ぶというのは現状できない状況でございます。

○浅川委員 はい、わかりました。今、支援館のほうの指定管理者でいらっしゃる民保協の方々は、ちょっとまた話が違うんですが、保育士になりたい人がとても今減っていて、それで高校生に向けても小さな子どもと触れ合うような機会を、民保協のほうで設けたりとかということをやっつけられているんですね。それで、保育士にならなくても、まもなく子どもを産み育てていく年代になる高校生に向けて、せっかく同じところにありますので、何かそういったことがあったらいいのかななんて、ちょっと感想ですがありました。

○伊原会長 支援館との交流ということで、少しまた次年度の課題みたいな形でご検討いただければと思います。

そのほか、御意見、御質問ございますでしょうか。はい、三浦委員、お願いします。

○三浦委員 三浦です。本当にすごくいろんな企画などをやっつけてくださっていて、来館者数、満足度も非常に高く、すごく頑張って運営されているんだなという印象を持っています。その中で、寄せられた苦情について、まずマスクの点ですけども、やはりコロナ禍を経て、衛生観念に関する人の感覚にはかなり開きが出たように思います。やはり、そこできちんとルールを作って、それを徹底していかないと、利用者同士のトラブルですとか、あるいは不満感というものにつながっていくと思いますので、マスクの着用を、あるいは今後どうしても感染症の流行する期間については、調理室に限らず、マスク着用に関してはトラブルになりがちな場面であると思いますので、こういった点については、施設のほうが一リーダーシップをとって、ルールの徹底というものをさせていただければと思います。

2点目が、苦情でe-スポーツに対して保護者の方から少しマイナスの評価があったところでもありますけれども、私個人としては非常に面白いなというふうに思いました、e-スポーツというものがいろんなニュースとかで取り上げられていても、なかなか経済的な事情からそういったものに接することができないお子さんもいらっしゃると思いますので、今後の運営の仕方を工夫されるなどして、ぜひこういった新しいものも積極的に取り入れた企画を実施していただければなというふうに思います。以上です。

○伊原会長 はい。事務局のほうから何かありましたらお願いします。

○石井子ども若者支援室長 まず1点目、マスクの取扱いは、個人の信条的なものもあって、なかなか難しい部分があります。逆にマスクをしなくていいのではないかという御意見もあつたりしますので、三浦委員がおっしゃられたように、事前にしっかりと周知をする、この講座と

してはマスクをするのかしないのかということをしかりと誤解のないように周知徹底をしていけたらなと思っております。

また、e-スポーツにつきましても運営面の課題がありますけれども、e-スポーツ自体を否定するものではございませんので、今後もe-スポーツ、デジタルに触れる機会というのを積極的に検討していければと思っております。

○伊原会長 ありがとうございます。三浦委員のほうから2つ御意見いただいたのですが、市民からの意見も出ているもので、衛生面については重要ですので、引き続き施設のほうがリーダーシップをとってご対応をお願いします。

また、e-スポーツ、新しい取り組みで、積極性が非常に評価できる場所ですので、運営の仕方等、今後とも御検討よろしくお願ひいたします。

そのほか、御意見、御質問ございますでしょうか。大丈夫ですか。

無いようでしたら、それでは、ここまでの議論を踏まえまして、年度評価シート、7の「(3)委員会の意見」を整理させていただきます。まず、先程説明いただいたように、市による評価のとおり、全体的に求める水準等を上回っておりまして、優れた管理運営が行われていると認められると思います。また先程、加瀬委員のほうからありましたように、昨年度の当委員会の意見をきちんと踏まえた対応を適切に行っており、その点も評価できると考えております。施設管理者の財務状況につきましては、あらかじめ福澤委員のほうを確認いただきましたが、現状においては特段の問題はないと認められます。利用者数が10万9,202人と、非常に計画値を大きく上回ったこと、利用満足度が非常に高い点について評価したいと思います。本施設の特徴的な取り組みの周知や、先程のe-スポーツのような新規事業の検討等により、多様な年代の利用促進について、より一層努めていただきたい、とします。また、マスク等ありましたが、衛生面での対応については、利用者の意見を反映し、より一層努められたい、以上の形で整理いたしました。ただいま整理した事項を委員会の意見としたいと思ひますが、いかがでございますでしょうか。質問等ないでしょうか。

それでは、ただいま整理した事項を委員会としての意見とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

それでは、議題(3)「千葉市子ども交流館 施設管理の年度評価について」の委員会としての意見は、ただいま整理した内容を基本として、詳細については、私と事務局にて調整することということで、御了承いただいてよろしいでしょうか。

はい、それでは、それで進めて行きたいと思ひます。それでは事務局のほうの説明員の入れ替えをお願ひいたします。

はい、それでは次に、議題(4)「千葉市少年自然の家 施設管理に係る年度評価について」事務局より説明をお願ひいたします。

○加曾利健全育成課長 健全育成課の加曾利でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、少年自然の家の指定管理者年度評価シートについて、御説明させていただきます。資料3-2-1「令和6年度指定管理者年度評価シート」を御覧ください。

まず1ページ、「1 公の施設の基本情報」についてですが、施設名は「千葉市少年自然の

家」で、条例上の設置目的は、「自然環境における集団生活及び体験活動を通じて、少年の健全な育成を図るとともに、市民に自然の中での学習及び相互交流の場を提供する。」としております。

次に「2 指定管理者の基本情報」でございます。指定管理者は、「千葉 YMCA・伊藤忠 UC グループ」です。代表団体は「一般財団法人千葉 YMCA」、構成団体は、「伊藤忠アーバンコミュニティ株式会社」でございます。指定期間については、「令和2年4月1日から令和7年3月31日まで」の5年間で、今回は今期最終の年度評価となります。

続いて、2 ページ、「3 管理運営の成果・実績」でございます。「(1) 成果指標に係る数値目標の達成状況」の施設利用者数（延べ数）ですが、指定管理者の設定しました、年間11万人以上という数値目標に対しまして、実績は8万6,200人で、達成率は78.4%です。なお、このページには記載はございませんが、前年度、令和5年度の8万6,718人と比較しますと、約500人減となりました。減少要因といたしましては、夏季の台風でキャンセルがあったことが挙げられます。指定管理者の目標としては、1年ごとに4,000人増を目標としておりましたが、想定ほどの利用者増には至らず、目標に達することはできませんでした。続いて、主催事業の実施数ですが、指定管理者の設定しました年間70回以上という数値目標と比較しまして、実績は122回で、達成率は178.6%です。星空キャンプや防災キャンプなどの多様なキャンプ事業を展開したほか、小学5年生で移動教室を行うのですが、その前に体験ができるという利用者からの声がありましたので、その声を元に昨年度新たに、小学4年生を対象とした「ドキドキ1泊キャンプ」を実施するなど、利用者のニーズを踏まえた事業を多数行うことで、目標を上回って達成することができました。続いて、新規開発・改良を行った活動プログラム数ですが、指定管理者の設定しました、年間20件以上という数値目標に対しまして、実績は25件、達成率は125%です。夏の厳しい暑さでも楽しめるよう、施設内で行えるプログラムですとか、防災意識を高めるプログラムなど、こちらも利用者ニーズを踏まえたプログラムの開発・改良を行いまして、目標を達成しております。

続いて、2 ページ下の「(2) その他利用状況を示す指標」でございますが、これは指定管理者が独自に設定しました数値目標でございますが、5年間累計の延べ利用者数、利用可能なプログラム数、移動教室・農山村留学・日帰り利用等モデルプランの実績を記載しております。累計延べ利用者数については、5年累計で51万人以上という目標に対しまして、達成率は65.6%となりました。令和2年度から4年度にかけての新型コロナウイルスまん延防止のための一時臨時休所、小中学校の宿泊中止、人数制限の中の運営などが大きく影響しまして、目標を下回る結果となりました。プログラム数及びモデルプランにつきましては、御覧のとおり、いずれも目標を上回っております。

続きまして、3 ページ、「4 収支状況」でございます。「(1) 必須業務収支状況」の「ア 収入」ですが、一番下の合計を御覧いただきたいのですが、計画額よりも680万8,000円減となりました。台風によるキャンセルがあったことなどで、利用者数が目標値を達成できなかったことで、想定よりも利用料金収入減となり、また利用者数が振るわなかったことに伴いまして、リネン類や食堂の利用も想定を下回った結果、実績額が計画額を下回る結果となりました。続

いて、4 ページの「イ 支出」ですが、同じく一番下の合計額を御覧いただきたいのですが、計画額よりも 682 万 4,000 円増となりました。その主な要因は、全国的な光熱費の高騰によります電気代・ガス代の増加にあります。

次いで 5 ページ、「(2) 自主事業収支状況」ですが、「ア 収入」が 105 万 7,000 円、「イ 支出」が 84 万 4,000 円で 21 万 3,000 円の黒字となりました。主な要因は、キャンプブームの影響で、キャンプサイトにおける野外宿泊体験活動の利用者が増加したことや、外部講師による特別なクラフトやアウトドア料理を行う「こだわりワークショップ」に想定以上の参加があったことが収入増につながりました。

最後に、その下「(3) 収支状況」ですが、必須事業、自主事業を合わせた収支は 1,341 万 9,000 円の赤字となりました。なお、資料右の枠内に補足の記載がございますが、光熱費の高騰により発生しました必須業務分に掛かる管理運営経費の不足額につきましては、施設が健全な運営を継続できるよう、光熱費支援金で補填対応をいたしました。収支の詳細は以上になります。

続きまして、6 ページ以降、「5 管理運営状況の評価」でございます。まずは「(1) 管理運営による成果・実績」ですが、施設利用者数の延べ数につきまして、市設定の数値目標の 95.8% となりまして、これは【評価の内容】に示します、85% 以上を達成していることから、基準にのっとりまして、C 評価としております。次に、主催事業の実施数ですが、市設定の数値目標を 120% 以上、かつ指定管理者選定の数値目標を達成しているため A 評価としております。また、次の新規開発・改良を行った活動プログラム数につきましても、主催事業の実施数と同様の基準を満たしているため、A 評価としております。

続きまして「(2) 市の施設管理費縮減への寄与」ですが、令和 6 年度は選定時の提案額と同額を支払っており、指定管理料に増減はありませんでした。従いまして、C 評価としております。

続きまして、7 ページ「(3) 管理運営の履行状況」でございますが、モニタリングレポートの結果を「算出表」に当てはめ評価区分を決定しておりますが、その結果、今回、事業者の自己評価と市の評価ともに全て C 評価となりました。

ここからは市として特に評価した点について御説明いたします。

まず表の 3 の「(2) リスク管理・緊急時対応」ですが、ナラ枯れによる倒木への対策や所内で目撃されましたイノシシ、あるいは続く 8 ページにありますスズメバチへの対策、また、体調不良者が出たときや災害発生予測時に柔軟なスタッフ体制を実行するなど、利用者の安全面に配慮した運営に努めました。

次に、表の「4 施設の効用の発揮」の「(1) 入退所時間、使用時間、休所日」についてですが、こちらは先ほどのリスク管理・緊急対応にも関連しまして、体調不良者や災害発生予測時のスタッフによる柔軟な対応を評価したものでございます。

次の 4 の「(4) 利用促進の方策」の「②高校生以上の利用促進策」ですが、次の 9 ページの特記事項一番上に記載のとおり、令和 6 年度に新たな取り組みとして「おかえりなさいキャンペーン」と題しまして、年度中に 20 歳を迎える方とその同行者向けに料金割引を実施するとともに、「千葉県二十歳のつどい」でのチラシの配布、あるいは PR 動画の放映を行うなど、

若者へのアプローチを積極的に行いました。

続きまして、8 ページ目に戻っていただきまして、4 の「(6) 施設の事業の効果的な実施」の「①活動プログラム開発・提供」ですが、先ほど申し上げた利用者ニーズを考えたプログラムを多く開発したこと、また、その中にはナイトハイキングなど特に好評となったプログラムも含まれていたため、その点を評価いたしました。

最後に、4 の「(7) 自主事業の効果的な実施」の「①特別イベント運営事業」ですが、自主事業の収支の説明の中で申し上げました、外部講師による特別なクラフトやアウトドア料理を行う「こだわりワークショップ」に想定以上の参加があったことが評価につながりました。本事業は、これまで参加者が伸び悩んでおりました事業でしたが、新たにピザ作りや脱出ゲームなど趣向を変えた企画を実施したことで多くの参加をいただきました。

続きまして、10 ページの「(4) こども未来局指定管理者選定評価委員会の意見を踏まえた対応」ですが、2 つの御意見をいただきました。1 つ目の「害獣及び災害について適切に対策を講じ、安心して利用できる施設運営について引き続き努められたい。」についてですが、イノシシなどへの対策として様々な策を講じ、また、災害時や事故、体調不良者への対応を迅速かつ柔軟に行いました。2 つ目の「高校生以上の利用促進について、企画検討やその周知等により一層努められたい。」についてですが、新たに「おかえりなさいキャンペーン」を実施しまして、若者への PR を行うとともに、大人利用のモデルプランを提案する、大人のみでのキャンプ利用や、閑散期利用に割引キャンペーンを行うなど、これまで取り組んできました利用促進策を継続して行いました。

続きまして、11 ページ、「6 利用者ニーズ・満足度等の把握」「(1) 指定管理者が行ったアンケート調査」です。利用種別ごとにアンケートを行いまして、学校・団体・家族合わせて 1,015 件の御意見をいただきました。全体の回収率は 60.8%となっております。そのページ左下の共通項目アンケート集計結果の表を御覧ください。全項目平均点が 5 点満点中 4 点以上で利用者満足度が高い結果となっております。特にスタッフに関する項目は、他の項目と比べ評価が高い結果となりました。一方で、その表の下の方にあります食事に関する項目が他の項目と比べると低く、施設の特性上、子どもの利用者が多い中で、大人の利用者にも満足いただくような食事提供が課題となっております。なお、続く 12 ページの「②アンケートで寄せられた主な要望と対応」につきましては、記載のとおりでございます。

最後に、その下「7 総括」でございます。「(1) 指定管理者による自己評価」ですが、中学生以下の利用促進として、県内約 1,000 校の小中特別支援学校に向けてチラシを配布、見学会を開催、また、高校生以上の利用促進として「おかえりなさいキャンペーン」を開催したこと。SNS の活用や市公共施設へのポスター掲示、外部メディア等、様々な角度から情報を発信したこと。農作物や藍の生育状況が好調であったため、主催事業・自主事業を計画した回数以上に実施したこと。また、新たに外部団体と連携した新たなプログラム、脱出ゲームなどを実施したこと。アンケートの声に応え、渡り廊下へのソーラーライトの設置、区画ロープの撤去を行いまして、夜間の安全確保に努めたこと。また、イノシシ対応として、巡回や箱罾の設置等を継続しながら、イノシシ対応動画の配信や遊歩道の周辺の藪の刈込みを行ったこと。以上

の点から、市が指定管理者に求める水準に達し、良好な管理運営を行ったとして C 評価となっております。

次に、13 ページの「(2) 市による評価」ですが、「評価項目の「D」が 20%以下かつ評価項目に「E」がない。」ことから、評価基準に沿って算出した結果、市の評価は C 評価となります。所見ですが、イノシシの侵入などの問題に対して、利用者に影響が出ないよう安全に配慮した運営を行ったこと、参加者数が伸び悩んでいた自主事業企画で趣向を変えた企画を新たに行うことで参加者獲得につなげたこと、中学生以下の利用促進として新たな利用者層へのアプローチを行い、また高校生以上の利用促進として二十歳の若者に PR を行ったこと、これらについて高い評価をしております。特に閑散期の大人利用につきましては、令和 5 年度の 2,954 人から昨年度は 3,347 人に増加するなど、各種キャンペーンの利用が実を結びました。その一方で、全体の延べ利用者数は昨年度横ばいでもございまして、また、利用者全体に占める高校生以上の利用者数についても横ばいでもございます。当施設は昨年度で指定期間の最終年度となりましたが、既に今年度から第 2 期が開始しておりまして、今期も同グループが指定管理者として選定されております。今後も利用者ニーズに応えながら、施設の更なる利用促進に努めることに期待したいところでございます。

説明は以上となります。どうぞよろしく申し上げます。

○伊原会長 はい、ありがとうございました。年度評価シート 7 の「(3) 委員会の意見」につきましては、また事務局のほうで事前に御意見を聞いているようですが、どのようなものであるか御紹介をお願いします。事務局をお願いします。

○高澤こども企画課長 こども企画課長の高澤でございます。千葉市少年自然の家の施設管理に係る年度評価について、事前にいただきました御意見を御紹介いたします。

まず、伊原会長から 4 点頂戴しておりまして、1 点目が、「令和 6 年度の施設利用者は 8 万 6,200 人であり、台風の影響など自然災害の影響が大きいことがわかる。千葉市の数値目標達成率は 95.8%であるため、よく努力をしていることがわかる。」、2 点目でございますけれども、「「おかえりなさいキャンペーン」など、高校生以上の利用促進のための取り組みに力を入れた点は評価できる。大学生や高校生のボランティア受け入れは利用促進にもつながるので、大学や高校との連携は継続してほしい。」、3 点目でございます、「キャンプブームをとらえ、アウトドア料理を取り入れたり、外部団体と連携して新プログラムを実施するなど、利用促進に積極的に取り組む姿勢は評価できる。」、最後、4 点目でございます、「SNS を活用した情報発信も重要である。今後も継続してほしい。」、との御意見をいただきました。

続きまして、福澤委員より、「事務局において作成された財務分析の資料を拝見する限り、指定管理者の事業の遂行に直ちに支障を来すような財務リスクは確認されない」との御意見をいただきました。

以上でございます。

○伊原会長 はい、ありがとうございました。それでは、あらかじめいただいた御意見の修正や補足すべき点のほか、御説明がありました点について追加の御意見や年度評価への質問等ありましたら、御発言をお願いいたします。

三浦委員、お願いします。

○三浦委員 昨年度委員会のほうから出た意見について、改善ですとか対応を図っていただいた点は評価できると思っています。特に、二十歳のつどいですかね、こちらでのチラシ配布というのは、千葉市で学生時代を過ごされた方が久しぶりに集まる機会に、こういった施設の案内があると、またここへ集まろうかということにも話としてつながりやすいので、非常にいい企画だなあと感じました。

また、害獣対策を含む安全対策についても、今、様々な害獣被害が出ている中で、引き続き対応していかなければいけない点だと思いますので、その点についても引き続きお願いしたいと思います。

また、この団体さんはいつもたくさんのプログラムを開発して、毎年新しいプログラムを出していただいていると思います。そのような中で、資料の9ページ目、特記事項のところに書いていただいた黒ポチの3つ目。子どものみ対象の事業では、子ども自身の声を反映するように努めているという点の、こどもさん、まさに参加者のニーズを拾ってさらに改善を図ろうとしている姿勢も評価できると思います。こどもさん自身がここで楽しい経験をするということがまた大きくなって、ここを利用しようというきっかけにもなるとと思いますので、ぜひ今後も様々なプログラムを開発して、利用者の方の満足度を高めていただければと思います。以上です。

○伊原会長 はい。三浦委員から意見がありましたが、事務局から何かありますでしょうか。

○加曾利健全育成課長 はい、ありがとうございます。先ほど最後に子どもの声、保護者の声というのがありましたが、先ほど説明しましたとおり、小学校5年生で移動教室というものがあるのですが、やはりお子さんの中で初めての宿泊でちょっと緊張するというものがありまして、それを会話の中で保護者のほうからですね、プレじゃないですけども、出来ればという声が必要に足りておらず、それに対して小学校4年生が対象の事業を行おうということでこういった取り組みをいたしましたので、ぜひそういった声を吸い上げて反映させていきたいと思っています。

○伊原会長 はい、ありがとうございます。三浦委員のほうから昨年度委員会の意見を踏まえて、改善をすぐに図っている点は評価できるというお話をいただいております。特に二十歳のつどいとか、大人に対する色々な「おかえりなさいキャンペーン」などの対応をしているということですが、高校生がまだなかなか伸びないということで、引き続き対応をお願いいたします。

害獣被害の対策もよくやっているようですが、これ、熊は出ないですね。

○加曾利健全育成課長 熊は出ないですね。

○伊原会長 そうですね。そちらも引き続きまたお願いしたいと思います。

色々新しいプログラムということですが、特に子どもの意見を反映しているというのは素晴らしいと思います。先ほど、新しいプログラムの中で脱出ゲームというものが出てきましたが、どのような内容なのでしょう。

○加曾利健全育成課長 ごめんなさい、資料には詳細がないのですが、秋に行われた、「わいわいフェスティバル」というものの中で実施したものでして、施設内にゾンビがたくさん出てみ

たいな形のオリエンテーリングをした企画です。こちら 66 名参加して、こどもは 39 名、同伴者 27 名であります。無料イベントなので、気軽に入れるということで、新たな利用者の獲得に繋がればということで企画しています。

○伊原会長 わかりました。特別なゲーム感覚のオリエンテーリングということですね。

そのほか、御質問や意見がありましたら、よろしく願いいたします。浅川委員お願いいたします。

○浅川委員 私もいろいろなプログラムがあってワクワクして、楽しそうだなと思いました。防災意識を高めるプログラムというのも素晴らしいなと思ひまして、例えば空き缶で御飯を炊くとか、ポリ袋で御飯を炊くとか、そういうものが当たるのでしょうか、どんなプログラムなのかなと思ったのですが、是非キャンプブームに乗って、防災意識を楽しみながら高められるような企画をどんどん実施してほしいなと思ひました。私も行ってみたいと思ひました。以上です。

○伊原会長 ありがとうございます。事務局のほうから何か付け足しは大丈夫でしょうか。

○加曾利健全育成課長 そうですね、その防災キャンプというプログラムは実際に体育館に宿泊して避難所のような環境を体験してもらうようなものですが、様々な日頃の備えを見直すきっかけにしてほしいなと思ひています。

○伊原会長 学校の中でも体育館で防災一泊体験というものをやっているところもあるので、そういうプログラムなのではないかと思ひますが、防災とか星空とか、今のブームをよく捉えた非常に新しいプログラムの開発は素晴らしいと感じました。ありがとうございます。浅川委員ありがとうございます。

そのほか、御意見質問ありますか。加瀬委員お願いします。

○加瀬委員 加瀬でございます。先程、三浦委員からも話がありましたところなのですが、2点ありまして、SNS の情報発信と高校生以上の利用促進のところにつきましてです。前年度、生意気ながら意見させていただいたところがございまして、まず一点目、SNS での情報発信をされたというところなのですが、そちらの情報を見たという回収などはされましたでしょうか。例えば、インスタグラムを見て来ましたということが理解できているとか、何かエビデンスをもって、この SNS を見て来ました、この情報を見て来ましたというような、情報の受け取りというところの御理解、情報の回収はされたのでしょうか。

○事務局 資料にはないのですが、個別の利用者アンケートで、「当施設を何でお知りになりましたか」という内容で聞いているところがあるのですが、すみません、SNS 単体の項目はなく、「その他」の項目として回収しています。

例えば、6 年度の 10 月は、「知人・家族から聞いた」という意見が多くて、施設としてリピーターが多いというのがあります。口コミが多くを占めている、あとはホームページが多い状況です。

年度報告書にはないのですが、毎月の報告には上がっています。

○加瀬委員 承知しました。今の質問の意図としましては、次の 2 点目の高校生以上の利用促進のところにつながるころと思ひておりまして、この情報を発信するに当たって、ターゲット

がどこなのか、この媒体を利用することで、どの年代にお渡ししたいかという情報の回収というものが、毎月報告いただいているところに紐づいてくると考えております。年代の方が利用する媒体、例えばホームページであれば、リピーターの方であったりですとか、高校生の利用促進であれば、SNS であるとか、そういうところにアプローチがつながると思いますので、目的と一緒に媒体を確認いただくと、もっとより良く施策として、きちんと見返りというか返しがあるのかなと思いましたが、そちらも追加で注意しながらみていただくと、より効果が得られると思いましたが、伺わせていただきました。

追加なのですが、高校生以上の利用促進につきまして、繰り返しになりますが、横ばいというところが気になっておまして、キャンペーンを新たに行っていたにもかかわらず横ばいだったのが残念と思おまして、これは思い当たる理由はありますか。

○加曾利健全育成課長 きっかけづくり、周知と言っても、なかなか難しいところがありまして、高校生がホームページを開いて、こんなイベントがあるんだというの、なかなかそれも難しいと思っています。おっしゃったとおり、高校生は SNS の活用が大きく影響するのではないかと、いうところで、ちょうど、自然の家の方も、紹介できる動画を作成中です。これを例えば YouTube など流せば、周知につながるのではないかと、いうことで、SNS の活用をさらに進めて参りたいと考えています。その部分が、まだ足りないかなと捉えております。

○加瀬委員 昨年、伺ったキャンペーンの内容が利用金額を半額にするキャンペーンというところで、同じようなキャンペーンだと思おますが、半額というところだけだと、高校生が食いつきにくいところがあって、施設を活かしたコンテンツの提供であるとか、レンタル物などの高校生が手に届かないオプションのようなものがあるようであれば、SNS を見て来た、インスタグラムを見て来たとかいう紐づけをしていけば、これを見たから画面を見せてくれれば貸しますよみたいなところの対策ができるのではないかと、ちょっと去年意見させていただいたところがございまして、その辺りも今後ですね、今すぐとは言わずとも、何か伸び悩んだときに新たに入れていただくのもまた良いのかなと思おましたところございまして。以上です。

○伊原会長 はい、ありがとうございます。加瀬委員のほうから、やはり SNS 情報発信をしているということでしたら、何をみてきましたかというのを毎月報告いただいているということですが、その中で SNS をみてきましたかという結果であれば、作っている職員の方も非常にやる気が出ると思いますか、作ってよかったなとなりますので、是非ともそのところを引き続きお願いして、そういった結果が分析できればお願いしたいと思います。

高校生以上の利用促進につきましては、今、加瀬委員が言っていたことを参考にしていただいて、今、事務局のほうでも動画を作成中だということなのですが、今の若い者はみんな施設を見るときは YouTube を見るのですね。YouTube で見ると自分が施設に行ったような視線で紹介してくれて、それを見て行っているところがあります。一番良いのは来た人に作ってもらうのが良いのですけれども、そういった色々な若い人の視点を取り入れて、検討していただければと思います。非常に良い取り組みをやっていますので、あとは外への出し方だと思いますので、御検討引き続きお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

はい。そのほか、福澤委員お願いします。

- 福澤委員 資料3-2-1の5ページ、「3 収支状況」の【参考】5年度の列を見ますと、必須業務と自主事業の足し算したものが、下半分の総収入以下でトータルの数字になっていると思うんですが、6年度のほうの列は必須業務と自主事業の足し算になっていなくて、これは単純にエクセルの拾い漏れあるいは計算式が違うと思います。
- 高澤こども企画課長 確認してはありますが、恐らく御指摘のとおり、入力ミス、計算誤りです。
- 福澤委員 他の施設では5年度と同じようになっているので、ここは単純にエクセルデータ参照ができてないところだと思います。後で訂正いただければと思います。右側の四角の中で、不足額1万3,632円については補填対応済みという御記載があって、要は1万3,632円についてはどこの部分なのかというので、総収支に対するものなのか、必須業務に対するものなのか、今の数字だと同じになっていて分からなかったの、御質問しようと思った経緯です。それと合わせて、ひとつ前の施設でも御説明にあったのですが、光熱費高騰に伴って支援金、補填金というフレーズの御説明があったのですが、光熱費の予想外の増加に対して補填をしますというスキームなのか、収支の1万3,632円のマイナスになったので、そこに対して補填しましたみたいな支援になっているのか、つまり、収支がゼロになるような補填なのか、グロスで光熱費が予想以上に増えた分に対して補填するという制度になっているのか、こういうシステムがあるということを書いていただいたことは非常に良いことだと思いますが、そこがわかりづらいと思います。
- 山口こども未来部長 基本的には、光熱費の高騰分で不足した額を対象にするという考え方なのですが、その際に施設全体の収支の不足額と比較して少ないほうの額を支援するという形で、支援金を出させていただいた状況になっております。名目というか目的は光熱費なんですけれども、光熱費がマイナスになっていても収支が全体として黒字になっている施設に関しては、支援金のほうは出してないという状況でございました。
- 福澤委員 なるほど、非常にクリアになりました。いずれか低いほうということですね。わかりました。
- あとは支援金というものの中身が、それは市の支援金なのか県の支援金なのか国の支援金なのかみたいなこと、要は誰のお金が使われているのかは読まれる方の関心事項だと思います。
- 高澤こども企画課長 国庫は国庫ですね。
- 福澤委員 どこまで詳しく書くかは事務局にお任せしようと思います。すみません長くなりました。
- 伊原会長 福澤委員、ありがとうございます。事務局はよろしいですか。
- やはり専門家の福澤委員に見ていただかないと分からないところがございます、御指摘いただきましたが、福澤委員のほうから御指摘のあった6年度の収支について、もう一回見直して、数字のほう整理をお願いします。
- また、補填の記載については、記載すること自体は良いことなので、そこをもう少しわかりやすく明確にできるかどうか、その辺の御検討のほうもお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。そのほか意見や御質問はございますか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

他にございませんようでしたら、それではここまでの議論を踏まえまして、年度評価シート7の「(3) 委員会の意見」を整理させていただきます。よろしいでしょうか。

市による評価のとおり、おおむね求める水準等に即した良好な管理運営が行われていると認められるということでよろしいでしょうか。また、先ほど、加瀬委員の方からもありましたように、昨年度の当委員会の意見を踏まえた対応を適切に図っており、評価すると思いたします。そして、指定管理者の財務状況については、福澤委員に事前に財務分析をしていただきましたが、現状において特段の問題はないと認められます。非常に多くの工夫されたプログラムを展開し、また先ほど小学生のような利用者のニーズをしっかりと考えたプログラムや、子どもたちに人気のプログラムを開発した点を評価すると思いたします。引き続き、利用者の声を取り入れた満足度向上につながる取り組みを期待いたします。新たな利用者の創出に向けて、様々な策を講じている点は評価しますが、先ほどさらに高校生の利用を促進するような取り組みの助言がありましたが、今後、利用者の実数として効果が表れるように評価・検討のうえ、引き続き進めていただきたいということでまとめたいと思いたしますが、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは次の議題(4)「千葉市少年自然の家 施設管理に係る年度評価について」の委員会としての意見は、ただいま整理した内容を基本として、詳細につきましては、私と事務局にて調整するというところで御了承いただきたいと思いたします。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

続きまして、報告事項のほうに入らせていただきます。報告事項について事務局より説明をお願いいたします。

○高澤こども企画課長 こども企画課の高澤でございます。本日、委員の皆様に取りまとめでいただきました御意見等につきましては、伊原会長から市長あてに、委員会の意見として答申をいただくこととなります。

この委員会の答申を受けまして、事務局において、委員会の御意見を指定管理者年度評価シート、先ほどのシートの、7(3)に記載したものを、後日、本市ホームページにおきまして掲載し、公表するとともに、指定管理者へ通知をさせていただきます。

当委員会の会議録につきましても、同様に市ホームページにて公表することとなります。公表の時期等が決まり次第、委員の皆様には御報告をさせていただきます。なお、今回の委員会の会議録につきましては、後日、委員の皆様にご確認をお願いしたいと考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

続きまして、今後のスケジュールになります。追加資料という別紙をお手元をお願いいたします。本日、いずれの施設も年度評価をいただきましたため、今年度につきましては、以降の開催予定はございません。

来年度、資料の2番になりますけれども、来年度につきましては、「千葉市子ども交流館」及び「千葉市子育て支援館」につきまして、年度評価に加えて総合評価や候補者選定のタイミングとなりますので、合計いたしまして3回になります。6月頃に第1回として3施設の年度

評価及び子ども交流館・子育て支援館の総合評価、7月頃に第2回といたしまして、子ども交流館・子育て支援館の指定管理者の公募に向けた募集関係書類等の事前審査、10月頃には第3回といたしまして、子ども交流館・子育て支援館の予定候補者の選定をお願いさせていただく予定となっております。具体的な日程につきましては、追って調整をさせていただければと存じますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

説明は以上でございます。

○伊原会長 ありがとうございます。ただ今の事務局の説明につきまして、御質問等ございましたら御発言をお願いします。

よろしいでしょうか。はい。では、この次皆さんとお会いするのは来年度の6月ということになりますね。本日の議題等は以上でございますが、全体を通して御質問や御意見などございましたら御発言をお願いします。

はい。それでは、長い時間御審議いただきました委員の皆さん、ありがとうございます。また、御説明いただきました事務局のほうも最後までありがとうございます。本日の委員会は終了とさせていただきます。御協力ありがとうございました。

それでは事務局のほうにお返しいたします。

○事務局 以上をもちまして委員会を終了させていただきます。長時間にわたりまして活発な御審議を賜りまして、誠にありがとうございました。

※ 発言等の一部につきましては、必要に応じ本人に了解を得るなどした上、趣旨を損なわない範囲で修正しております。